

# 歯みがき

ワンちゃん、ネコちゃんも歯みがきをしなければ、歯垢、歯石がつき歯肉炎、歯周病になって痛がったり、細菌が体内に侵入して病気の原因になったりします。がんこな歯石が付くと、麻酔をかけて歯石除去をしなければいけなくなります。できれば毎日夜寝る前の歯みがきしていただきたいのですが、数日に1回でも効果はありますので、ぜひ習慣付けてやってあげてください。

**【歯垢とは？】** 口腔内の食べかすや、はがれた上皮細胞、糖タンパクなどに細菌が繁殖して歯に付着するもの →食後6～24時間で形成

**【歯石とは？】** 歯垢が唾液中の糖タンパクやリン酸カルシウムなどに結合して、歯垢から石灰化し歯石が形成される。表面が不均等（凹凸）で、さらに歯垢沈着がおこり炎症を引きおこす。

→犬：歯垢形成後3～5日で形成

猫：歯垢形成後1週間で形成

歯石の沈着した歯。  
歯肉が赤く腫れ、  
歯肉炎になっています。



## 【歯周病の症状】

口臭、よだれ、口からの出血、鼻出血や膿性鼻汁、顎や頬が腫れたり膿が出る、口の周りや顔を触られるのを嫌がる、食事中口を気にしたり突然声をあげる、片側だけでものをかむ、やわらかいものしか食べない、食べたそうだが食べられない、など

## ◆◆◆ 歯みがきの方法 ◆◆◆

### ① ブラッシング

一番良い方法は人間のように歯ブラシを用いてブラッシングすることです。  
(ブラッシングの方法は裏面参照)

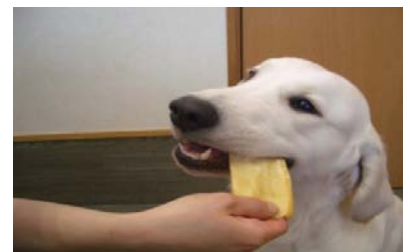
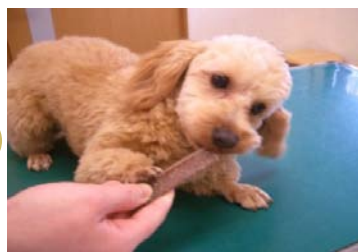
### ② ガーゼなどで 歯をこする

歯ブラシをかじってしまったたり、口を開けないで歯ブラシでブラッシングができないときは、ガーゼを指に巻いたり、指サック、軍手、タオルなどを使って歯みがきをしましょう。歯みがきペーストを塗ることで効果は期待できます。猫はブラッシングが難しい場合も多いので、この方法が良いでしょう。

### ③ デンタルガム (チュウ)

上記の方法が難しい場合は歯みがき用のデンタルガムを使う方法もあります。のどに詰まる事故を防ぐため空腹時には与えず、飼い主さんが手でもって噛ませることの研磨作用で歯みがきの代わりになります。  
猫用のチュウもあります。

④デンタルガムは、人間が手に持った状態のまま噛ませてあげてください。



## ◆◆◆ ブラッシングの方法 ◆◆◆

### ◆慣れさせるために

- ① まず口の周りをさわることから始めましょう  
口をつかみ、数秒間維持します（マズルコントロール）
- ② 唇をめくり前歯、犬歯、臼歯（奥歯）をみます。  
口も開けられれば開けます



### ◆ブラッシングのステップ

- ① 前歯部から少しずつブラッシングを行います。嫌がるようなら無理をせず、歯ブラシに歯みがきペーストをつけて舐めさせるだけにして、日にちをかけて慣らしていくとよいでしょう。
- ② 歯ブラシの感触に慣れてきたら、歯と歯茎の境界を力を入れずに円を描くようにブラッシングします。
- ③ 前歯、犬歯、臼歯（奥歯）と徐々に奥の方へとブラッシングします。

**【歯ブラシ】**：犬猫用の歯ブラシが市販されています。

毛先がやわらかい人間の子供用歯ブラシでもいいでしょう。



**【歯みがきペースト】**：歯垢形成予防効果のある酵素入りペーストがあります。ブラッシングがよくできれば使わなくてもいいと思います。うまくブラッシングできないときには歯に塗ったり、舐めさせたりすることでも効果は期待できます。犬用、猫用があります。

- ❖ 動物に合った歯ブラシ、歯みがきペーストを選びます。
- ❖ 正面からでなく、後ろから抱きかかえるようにしてやりとやりやすいです。
- ❖ 無理強いをせず、少しできたらほめてあげましょう。  
できなくても叱ってはいけません。  
「歯みがきは楽しいこと」と思わせるようにします。



- ❖ 外側を重点的にみがきます。  
内側は唾液や舌で歯石はつきにくいですが、できればブラッシングしたほうが良いです。
- ❖ 子犬、子猫のうちから習慣付けましょう

- ❖ 成犬、成猫でも遅すぎるということはありません。かなり歯石がついていたり、歯肉炎がある場合は治療してから始めた方が良いでしょう。ご相談ください。

☆また、飲水に混ぜて飲ませるリキッド（液体）もあります。

口臭予防、歯石予防、歯肉炎改善、飲水嗜好性向上などの効果があります。